EAP カリキュラム 質保証指標モデル

２．EAP カリキュラム運営

2.1 EAP カリキュラムの全体的な運営管理の構造が、教職員スタッフに明示されていること。つまり、EAP 部門代表・運営担当者や教員スタッフの責任が明らかになっており、事務職員や他の支援スタッフの役割が、EAP 部門の全てのメンバーに明確に理解されていること。

□ EAP 部門のハンドブックに記載し、関係者に配布している。
□ 新任教員ガイダンスで説明している。
□ 運営に関わる教職員が定例会議を開催し、情報共有をしている。

2.2 EAP カリキュラムの全体的な構造が、学生に明示されていること。つまり、英語カリキュラムの目的や科目構成が明らかになっており、学習支援の施設や相談窓口などが明確に理解できるようになっていること。

□ 教務課などが配布する履修の手引きなどで学生に説明している。
□ 新入生を対象とした英語カリキュラムのガイダンスで説明している。
□ 英語カリキュラムに関する学生ハンドブックを配布している。
□ 英語カリキュラムやプログラムの、案内パンフレットや資料を配布している。
□ 英語カリキュラムのホームページや学内 LMS などで情報を配信している。

2.3 EAP 部門が、科目設計、時間割編成、基準に基づく学生のグループやクラス編成、授業担当教員の割り当て、指導や成績評価の把握など、EAP 部門の運営の直接的な責任を担うこと。

□ 英語テストの点数にもとづくクラス編成をしている（例：TOEFL、IELTS、TOEIC、独自英語テスト、入試の英語試験)。
□ 各科目にコーディネータをおいて科目設計と運営を任せている。
□ 毎年または数年ごとに科目内容や教材などの見直しをしている。
□ 共通シラバスを設定している。
□ シラバス作成のガイドラインを授業担当教員に示している。
□ 授業担当教員が作成するシラバスを、 EAP 部門代表・運営担当者・科目コーディネータが確認している。
□ 教科書や教材を指定している。

☐ 教科書選定のガイドラインを教員に示している。
☐ 授業アンケートによる学生からのフィードバックで指導の実態を確認している。
☐ 科目ごとに全クラス統一の成績評価基準を設定している（授業参加度、テスト、課題成績の割合など）。
☐ 科目ごとに全クラス統一で成績評価を行っている（共通テスト、共通課題など）。
☐ 成績評価のガイドラインを授業担当教員に示している。

2.4 授業担当教員が、EAP カリキュラムの情報、利用可能な教材やリソース、成績評価の基本方針に関するガイダンスを受けること。

☐ ハンドブックを教員に配布している。
☐ 新任教員ガイダンスを開催している。
☐ 授業担当教員の定例会議を開催している。
☐ 新任教員にメンター教員をつけている。

2.5 EAP 部門が、なんらかの標準化された方針で、EAP の指導効果をモニタリングしていること。

☐ 英語テスト（TOEFL、IELTS、TOEIC など）をカリキュラム・プログラム履修の開始時と終了時に実施している。
☐ 科目ごとに学生による授業アンケートを実施している。
☐ 科目ごとの共通テストや共通定期試験を実施している。
☐ 指導効果についてなんらかの内部評価を行っている。
☐ EAP 部門代表・運営担当者が、授業担当教員の授業観察を行っている。
☐ 授業観察の方針を設定している。

2.6 EAP 部門の教員が、少なくとも 1 回は授業観察されていること。

☐ EAP 部門代表・運営担当者が、採用審査時に候補者の模擬授業を観察している。
☐ EAP 部門が、定期的に授業観察を実施している。
☐ EAP 部門が、授業観察の方針を設定している。
☐ 授業観察の代わりに、採用審査時に、口頭で授業計画や指導方法を候補者に説明してもらっている。
☐ 授業観察などで見えた指導実践の改善方法などについて、観察者がフォローアップをしている。

2.7 EAP 部門が、開講期間中や終了時に、科目やカリキュラム全体の評価を実施すること。

☐ 学生による授業アンケートを定期的に実施している（各授業に対する評価）。
☐ 学生による科目に対する評価アンケートや聞き取りなどを定期的に実施している（各科目に対する評価）。
☐ 学生によるカリキュラム全体の評価アンケートや聞き取りなどを定期的に実施している。
☐ 授業担当教員による科目に対するアンケートや聞き取りなどを定期的に実施している。
☐ 授業担当教員によるカリキュラム全体に対するアンケートや聞き取りなどを定期的に実施している。
☐ 英語カリキュラムの内部評価を定期的に実施している。
☐ 英語カリキュラムの外部評価を定期的に実施している。
☐ 科目やカリキュラム評価の結果を受けてフォローアップ活動の計画や実施を行っている。
☐ フォローアップ活動の記録を残している（議事録や報告書など）。

2.8 科目やカリキュラム運営に関わる教職員が、適切に連携できるようになっていること。

☐ 定期的に連絡会議を開催している。
☐ メールなどで連絡している。